

# 樋門点検の対応

- 水没樋門、函体内が高水位である樋門は、過年度までに十分な点検に至っていないケースがあった。
- 豊富な知識・経験を生かし、現地状況に応じた調査方法の工夫により変状等を確認。

## 1. 点検状況と課題

函体が水没・高水位等の要因により、十分な点検に至らなかったケースがあり、施設の状態把握が不十分であった。

### →施設機能の把握が課題

河川名	施設名(設置年)	十分な点検に至らない理由
○○川	○○樋門(S47)	水位が高い
△△川	△△樋門(S54)	水位が高い
	■■樋門(H20)	水位が高い
	□□樋門(S59)	水位が高い
○○川	◎◎樋門(H11)	水位が高い
●●川	●●樋門(H11)	水位が高い
	▲▲樋門(S53)	高流速、高所作業(5m超)

## 3. 施設機能の把握

函体内の変状を確認する等、状態把握が可能となった。



函体接合部の破損、錆汁、漏水  
(水中ドローン)



全周クラック  
(GoPro搭載ボート)



全周クラック(潜水士)

## 2. 調査方法の工夫

水深や堆泥状況に対応した調査方法を工夫し、GoPro搭載ボートを自作する等、できるだけ簡易、安価な調査方法を検討した。

また、水中ドローンを起立航行させ、函体上部を撮影する等、現地調査時の方法を工夫した。

- 水中ドローン
  - ・水没、高水深
  - ・濁り少ない
  - ・泥の巻き上げが少ない



起立航行

- GoPro搭載ボート
  - ・高水深
  - ・泥の巻き上げがある



函体幅に合わせてフロート幅を調整→直進性確保

- 潜水士による直接目視
  - ・喫水が浅い、濁り多い等機器運用が困難



結果として、水中ドローンによる調査が最も課題の少ない調査方法であることがわかった。今後も状況にあわせて効率的な方法で調査を実施していく。